



3月15日は「靴の記念日」です。
日本の靴産業の誕生日です。

shoe
shoe
history
of
japan

ニッポン靴産業

150年



靴は、人と大地の接点。

2020年は、1870(明治3)年3月15日に我が国初の靴工場が誕生してから数えて150年目となる日本の靴産業、靴の浅草にとって節目の年。その歴史の中間点は1945(昭和20)年の太平洋戦争敗戦の年。前半75年は文明開化・殖産興国・富国強兵のスローガンを背景にした軍需・官需の時代であり、軍靴の生産が産業を支えた。後半は一転、民需の75年。洋装化、ファッション化、グローバル化といった目まぐるしい社会変化・マーケット変化に日本の靴は対応していった。

150年の歴史を振り返った時に感じるのは、靴産業の発展、より良い靴づくりにひたむきに尽くした先人の存在。履いたことのない「洋靴」づくりに挑戦した江戸時代生まれの若者。西洋に追いつけ追い越せの熱意と努力で靴業創設と製靴技術の向上に取り組んだ明治大正の産業人や靴工たち。敗戦後の国土荒廃の中、産業復興に取り組んだ軍隊帰りの若者たち。産業近代化やファッション化、国際ビジネス化をリードしたイノベーター。常に「若さ」と「情熱」が未来を切り開いてきた。

平成から令和へ——ウイズ・コロナの時代を迎えた日本の靴産業は、75年サイクルの大変革に否応なく取り組むことになった。必死のビジネス・サバイバルはすでに始まっているが、時代時代の節目に現れる「若さ」と「情熱」が変化に対応し、新たな日本の靴を生み出してきた歴史を知ると、現在の、苦難を超えた先に待ち受ける日本の靴の未来が楽しみに思える。どんなシステムで、どんな靴をつくり、日々の暮らしと健康を支える存在になるか——日本の靴の未来は今、である。

日本の靴150年

——軍需75年、民需75年、ネクスト75年は

戦後復興期、十分な素材や道具もない中で開かれた製靴技術競技会で最優秀賞を得た手縫紳士靴。新たな時代の靴を生み出すという職人の腕と心意気が込められた名靴だ。



東靴協会所蔵

昭和30年代、接着剤と製靴機械の開発が進み大量生産が可能になった。当初の合成ゴム底・接着製法の婦人靴、靴の浅草に戦後発展をもたらした価値ある一足といえる。



皮革産業資料館所蔵

contents

- 03 日本の靴150年
- 04 春靴秋冬 日本人の暮らしと靴
- 06 文明開靴 ニッポン靴産業のあけぼの
- 08 不撓不靴 勝三と直樹とレジェンドたち
- 10 金靴玉条 大手機械靴メーカーの誕生と変遷
- 12 風林靴山 大手紳士靴メーカー7社
- 14 百靴斉放 戦後復興から高度成長の60年代へ
- 16 千変万靴 高度化・成熟化の70~80年代
- 18 才子靴人 “靴脱ぎ文化国、独自の靴づくりを
- 20 靴族団欒 靴の街・浅草プロファイル
- 22 ニッポン靴産業年表
- 30 靴ミュージアムガイド

シューフィルC&Cネットワーク
〒111-0032 東京都台東区浅草7-3-6 タテマツビル2F
Mail: shoephile@mx9.ttcn.ne.jp



木や草をつかった植物性の下駄、草履、それに対して皮革をつかった靴、それは米作農業国日本と牧畜地帯ヨーロッパとの対比を示す。

【加藤秀俊「日常性の社会学」】

弥生時代に田下駄がつくられて以来、およそ2000年間、庶民は下駄や草鞋、草履などの鼻緒式のはきものをはいてきた。だが一方では、縄文時代の北方系の皮グツや、古墳時代から平安時代に大陸から伝わった各種のクツなども、日本に存続している。

【潮田鉄雄「日本のはきもの」】

私たちの場合は裸足というものが価値を持っているのです。……(履物を)脱いで神と直結しないとけないというのが、私たちの神様に通じる気持ちです。ですから、裸足というのがいちばん尊い形になります。

【多田道太郎「身辺の日本文化」】

日本では室内と室外の世界は、はき物のあるなしできつぱりと区別される。

【リースマン「現代文明論」】

西欧の文化においては、裸足というのは、裸身と同じように、非文化・反文化の記号的表現であった。

【山口昌男「足から見た世界」】

幕末維新期の人々が、西洋の靴と出会った時、どのようなところに戸惑いを感じたか。それはおそらく足をすっぽり包む革靴の窮屈さと、靴を脱がずに建物の中に入る風習にたいしてであったろう。

【小池千枝「服飾の表情」】

明治・大正期は一部の人々の間にハイカラスタイルが流行したものの、国民の大部分は、げた、ぞうりの生活であった。【安積和夫「靴と健康」】

洋間付き文化住宅の建設や生活様式の洋風化。背広に革靴スタイルという勤労者の洋装化。女性の社会進出——1923(大正12)年に起こった関東大震災は靴の普及に大きな影響を与えたといえる。

【山川暁「靴をはいたニッポン人(靴のラビンス所収)」】

戦後の昭和20年代、靴はきわめて高価な物だった。……だから、新しい靴はめつたに買えない。古靴を買ったりもしたが、あれは質屋へ行く時よりもつと惨めな気持ちになるものである。新しい靴は宝物であった。

【塩田丸男「男はそれが我慢できない」】

靴が貴重品だったためだろう、このころ(昭和20年代)は靴泥棒というものがいた。うっかり玄関を開けておくと靴を盗まれてしまう。

【川本三郎「続・映画の昭和雑貨店」】

昭和25年、モイラ・シアター主演のバレエ映画「赤い靴」、有楽座で32万人の観客を動員。銀座通りの靴屋には赤い靴が並んで、足元に関心が集まるようになった。

【世相風俗観察会議「現代風俗史年表」】

日本女性の多くが、本当に靴を履き始めたのは、第二次世界大戦後、日本の敗戦以後……靴を履くことによって、女性のめざましい活躍が今日みられるのです。

【福原一郎「女性にやさしい靴選び」】

ブーツが広くタウンウエアとして女性にはかれたということとは、ミニスカートにもまして、これはファッション革命、風俗革命だった。

【千村典生「時代の気分を読む」】

マニッシュなカジユアルシューズもズック靴も、女の人が仕事をもち、何よりもはき心地を求めるようになってから、その価値が認められてきた。男の人の眼で靴を選ぶのではなく、女の人が、自分の意思で心地よい靴を選んでいく。ライフスタイルの幅が広がり、服も靴も時代と共に変わっていく。

【高田喜佐「素足が好き」】

靴が一般化した大正時代からは、靴フェチも急に目立ってくるが、ではそれ以前、下駄やゾウリに対するフェチが同じような比率で存在したかといえ、両者の前には歴然たる差が認められる。

——靴が社会に普及すると共に、日本人のセックス心理も一大変革がもたらされたわけである。

【下川歌史「セクソロジー異聞」】

素足の美しさは日本人特有の

ものかもしれない。……日本人が素足や裸足の感触を失ったのは、高度成長以後のことである。

【立川昭二「からだの文化誌」】

日本列島の自然環境は住民たちに泥濘を歩む「すり足」——すりだすように足を前に進め、荷重をできるだけ足裏全体に「散らす」という歩行法——を要求した。

【内田樹「日本の身体」】

日本の履物文化の基本が、下



駄とか草履とか、そういう「つかかけ」式の形式にある……それがビジネスシューズにスリッポンが多く、なおかつ紐式の靴でも紐は結んだままで、靴ペラを使って事実上のスリッポンのように履く人が多い理由であろう。

【林望のイギリス観察辞典】

たとえば新幹線のグリーン車で靴を脱いで足休めに足を置いていた人たちが。これは男女とも落第。小金を持っているかも知れないが、品格のほどは絶望的に低い。

【坂坂元「モードシューズ・男性版」】

朝、玄関に光った靴が待っているのは、気持ちのよいものです。なにかすばらしい一日になりそうな予感さえます。輝きのある靴と汚れた靴とは、どうも違った人生を歩むことになりそうに思う。

【出石尚三「粋な逸品いい話」】

1977(昭和52)年、健康ブーム、マラソンブームの影

響でトレーニングウエアがよく売れ、ちよつと出の外出着として市民権を獲得し始めた。足まわりもバスケット、テニス、ジョギング用のスポーツシューズがスニーカーとして街中に進出した。

【世相風俗観察会議「現代風俗史年表」】

ワラジ、下駄、高下駄、ゴム草履、足袋、ゴム短靴、ズック、革靴、スニーカー。いろんなものを、私の世代は履いてきた。最近の若い人に訊くと、彼らの履物史は実に単純だ。「エート、最初がズックですよ。次が革靴、スニーカー。それでおしまい」。

【東海林さだお「食後のライスは大盛で」】

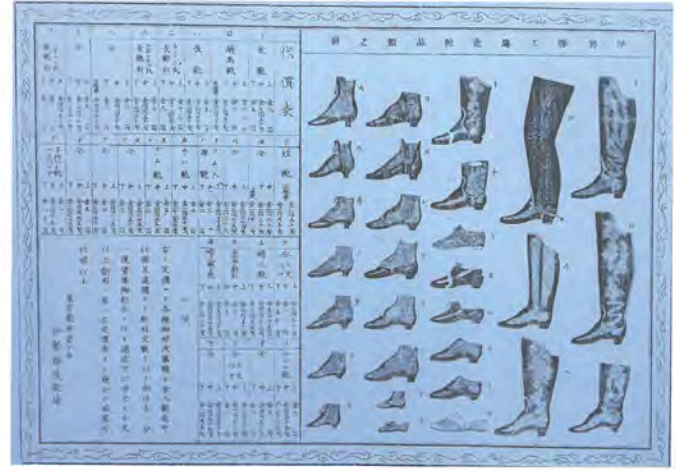
新しい靴(履物)を夜、履きはじめると凶。畳の上で履くのも凶。

【日本の言い伝え】

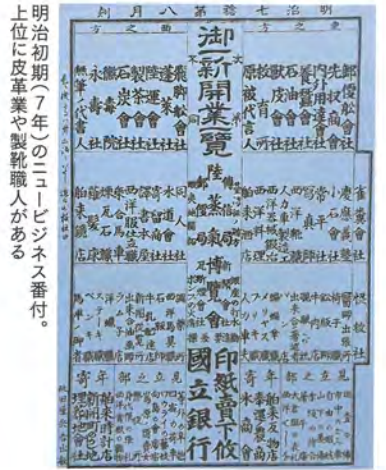
立ってしまった人間を救うのは靴しかない。

【平沢彌一郎「スタシオロジー」】

ニッポン靴産業のあけぼの



伊勢勝造靴場の商品カタログ



明治初期(7年)のニレビジネス番付。上位に皮革業や製靴職人がある



浅草亀岡町(今戸一丁目)にあった弾製靴所



伊勢勝の流れを汲み明治17年に設立した櫻組造靴場の本店



向島にあった「櫻組製皮場」

幕末から明治へ、幕府も新政府も、欧米の大国に負けぬがために、洋風文物を取り入れ、近代軍隊を整えることに力を注いだ。明治2(1869)年、陸軍が正式な軍装として洋靴登用を決める。そこに製靴の産業化の可能性が高まる。

それが、これは西村が、造靴場を開いた日に因んでいる。

これとほぼ同時期に、大阪で製靴業を始めたのが、藤田伝三郎だ。大阪鎮台(大阪方面軍)の御用達として軍靴を納入、西南の役で巨利を得たと言われるが、藤田は、現在の藤田観光の母体である藤田財閥の創始者であり、大阪財界の大立者と言われた人物だ。そうした人物が、実業家人生の初期に製靴業に関わったと

登場する。

日本靴産業の祖、西村勝三に、靴製造を勧めたのは、大村益次郎だと言われている。大村は、長州藩の軍事指導者として長州征討、戊辰戦争に活躍。維新後は、兵部大輔

いうことが、当時の靴産業の性格を語っていると言えよう。

現在の靴産業の中心である浅草には、弾直樹がいた。弾は徳川幕府のもとで皮鞆しを仕切ってきたが、時代の変化を見て取り、皮革製造伝習所、軍靴伝習所を開き、製靴に進出した。伝習所は最初、王子滝野川に作られたが、後に浅草橋場に移転した。

また、東京・芝では、大塚岩次郎が製靴店を開業した。大塚は、大塚製靴の創業者で

ある。

西村の伊勢勝は、後に櫻組と改称するが、その櫻組、藤田の藤田組皮革製造所を合併で吸収した大倉組皮革製造所、弾の流れを汲む東京製皮などの合併によって、発足したのが日本製靴、すなわち現在のリーガルコーポレーションだ。大倉組皮革製造所は、政商と言われた大倉財閥の創始者、大倉喜八郎が設立した靴会社だ。



明治初期の錦絵に描かれた西洋雑貨商人



ブーツに袴姿の女学生



明治12年の錦絵「諸工職業競」靴製造場の図



靴を履いた侍

図版: 稲川寛コレクション

兵装を整えるに当たり、靴はフランスから輸入したこともあったが、経費が嵩む上に、ヨーロッパ人の細い足に合わせて作られた靴は、痛くて教練どころではなかった。そのため、大村は国内調達を考え、官軍に武器などを納入していたことで旧知の間柄だった西村に、靴製造を示唆したのだ。

西村は、この話に、国家の行く末に関わるやういとビジネスとしての可能性を見たのだろう。大村の勧めにに応じて、1870年、わが国で初めての靴工場「伊勢勝造靴場」を、築地入舟町(現東京都中央区入船町)に開くのである。3月15日は、靴の記念日である



「靴業発祥の地」の石碑(中央区入舟町)

勝三と直樹とレジェンドたち

日本靴産業の祖

西村勝三

1836~1907年

佐倉藩（現在の千葉県佐倉市）の藩士の子として生まれる。少年時代は、まさに幕末。長崎海軍伝習所に入ろうと脱藩するが、願いは叶わず、それを機に武士を捨て商人に転ずる。鉄砲の売買を手掛け、そんな中で大村益次



郎と出会う。大村の勧めで1870年3月15日、わが国初めての靴工場、伊勢勝造靴場を開く。経営は困難を極めた時期もあったが、日清、日露と続いた戦争による需要に支えられ、かつ合併などの経営手腕と人柄で、わが国靴産業の礎を築いた。人柄は温厚で情に厚く、個人、企業の利益より、国家の利益を優先する姿勢を貫いたという。

靴産地・浅草の生みの親
弾直樹（矢野弾左衛門）

1823~1889年

弾左衛門は、徳川幕府の創設以来、関八州の「えた頭」として、皮鞣し業を仕切ってきた家系。直樹は、その13代目。継承してきた皮鞣しの伝統技術を基礎に、製靴業に進出。1871年、皮革製造伝習所、軍靴伝習所を、王



子滝野川に開いた。後に浅草橋場に移転。米人チャルレス・ヘニングルを技師に雇い、技術開発と靴工の育成に力を注いだ。その成果として「茶利皮」などを作り出したが、嵩む人件費や情勢の変化によって経営的には成功を見ずに終わった。しかし育てた靴工はやがて靴産業を担い、また浅草が今日あるのは、弾の功績が大である。

西村勝三年譜

年号

弾直樹 年譜

千葉・佐倉藩士の子として生まれる	1836(天保7)	兵庫・住吉に生まれる。幼名寺田小太郎
佐野藩に仕えるも後に脱藩	1839(天保10)	江戸に移り、矢野家を継ぐ
大阪へ行くなど商人として活動	1840(天保11)	第十三代弾左衛門となる
官軍の武器・食糧収集に働く。軍靴製造を研究	1850(安政3)	弾内記に改名。新政府に仕える
伊勢勝造靴場を創設。製革場も開設	1855(慶応4)	皮革づくり、靴づくりを研究
レマルシャンを教師に迎える	1868(明治元)	弾直樹に改名
西南戦争で工場拡大。勲業融資を受け、依田西村組となる	1869(明治2)	滝野川に製革・製靴場を開設
依田西村組、櫻組となる	1870(明治3)	浅草・橋場に工場を移す
櫻組など4社合併で日本製靴に	1871(明治4)	三井の融資を受け弾・北岡組となる
逝去(72歳)	1872(明治5)	全国博覧会に靴を出品
	1874(明治7)	軍靴注文減で苦境
	1877(明治10)	逝去(67歳)
	1884(明治17)	
	1889(明治22)	
	1902(明治35)	
	1907(明治40)	



西村勝三胸像除幕式 (昭和39年)



神戸・住吉にある弾直樹の墓(分骨)



本格的靴づくりを伝えた功労者
F.J.レマルシャン

1839~1884年

日本人に本格的靴づくりを教えた功労者。オランダに生まれたが、フランスに出て靴工場で働き製靴技術を身に付けた。26歳で来日。当初は、キリスト教の布教で暮らしたが、開国後に本業に転じた。靴教師の始

まりは、1870年の高知藩。72年に桜組の靴教師。その後は独立開業。やがて銀座に進出、横浜にも出店した。ヨーロッパ風の手縫い靴は、特に社交界の婦人たちに人気を博した。日本人と結婚、帰化。46歳で死去したが、葬儀にはその死を惜み多くの教えた子たちが集まったという。遺児の磯村平次郎は大正時代に名人として知られた靴職人。



渡米で磨いた靴職人のリーダー
関根忠吉

1856~1902年

靴職人のレベルアップと製靴技術向上の功労者。京都・淀藩の家老の家に生まれるが、新しい道を求め、西村の伊勢勝造靴場に入る。渡米は1889年。靴修理に従事するが、アメリカの靴工場主の依頼で日本人職工を集め

るために一時帰国。再び渡米し、在米日本人靴工同盟会を設立。その後帰国し、日本靴工同盟会設立に働き、また櫻組に入社。西村の機械製靴調査の命を受け渡米し、アリアンズ式製靴機械を購入。帰国。「櫻組改良靴」の開発・製造に当たる。櫻組を辞した後は、共同経営で製靴工場を営んだ。親分肌の性格で、靴工の信頼を集めた。



産業に大きな足跡を残す財界人
大倉喜八郎

1837~1928年

明治の政商として多くの事業を興し、大倉財閥を築く。戦後から星雲の志を抱き江戸に。幕末の機運を察知し、銃砲店や軍需物資を商う。明治に入り、貿易業を始め、一方で大阪に軍靴工場を開設。これを手始

らに94年には合名会社大倉組皮革製造所となる。その製靴部門は1902年に日本製靴に、製革部門は1907年に日本皮革へと同発展。日本の靴、皮革産業の中核を担っていくことになる。



民需の雄、トモエヤの創業者
相場真吉

1850~1900年

時代に先駆けて民需をリードしたトモエヤの創業者。武家に生まれたが、維新に際して時代は文明開化の方向に動いていると、横浜の貿易商、丸屋商事（後の丸善）に見習店員として就職。舶来品販売の中で靴の時代が来

ると確信。1869年、トモエヤを開設。人気となる。ウインドーを飾り、「靴と靴の一点張(専門店)」を謳い文句に新聞などに広告。その手法も斬新だが、さらに画期的なのは、真吉が逝去した後を継いだ子目蓮之助の「マッキンレイ靴」。マッケイ製靴機械による本格的機械靴だった。2代に渡り民需に徹した姿勢は、消費社会の先駆けだった。



関西靴・皮革産業の生みの親
藤田伝三郎

1841~1912年

関西靴・皮革業界の生みの親であり、関西財界の指導者として男爵位を授けられていた。幕末の長州出身で高杉晋作の騎兵隊に加わる。明治に入り、同郷人の勧めもあり軍靴製造に着手。御用商人として富を築き、

用達会社となる。当初は経営を主導していたが、93年頃には靴、皮革業界からは手を引くようになっていった。その後、内外用達は大倉組皮革製造所を経て、日本皮革株式会社に同発展していく。



日本の労働運動をリードした靴工
城常太郎

1863~1905年

日本労働運動の先駆者。熊本生まれ。神戸で靴工として修行後、1888年サンフランシスコに渡り、同地の日本人靴工の先駆者となる。白人労働者からのパッシングなど労働問題の解決をめざし職・義友会を結成。帰国後の

1897年、日本初の労働問題演説会を開催し、職工義友会や労働組合期成会を組織する。これが日本における労働運動の出発点とされている。無数の靴工労働者を支えるために、肺結核に冒されながらも全国を回り労働者を励ましたという。運動を離れて後、神戸で神戸製靴合資会社を設立。1901年には中国に渡り、天津製靴を設立するも43歳で死去。



履きよい靴の大塚の創業者
大塚岩次郎

1859~1925年

大塚靴の創業者。佐倉藩士の子に生まれ、西村勝三が製靴指導の目的で、生まれ故郷の佐倉に開いた佐倉相済社で、製靴技術を学んだ。そして1872年、13歳で東京・芝で開業。苦勞を重ねたが、82年に天皇の

足に合う靴を研究。現在も使われている「爪先芯」などを開発。また下請け制度と徒弟制度を組み合わせて、注文の確実な納品を実現した。その精神は、信用と履き易い靴づくりを重んじる大塚靴に、今も生きている。



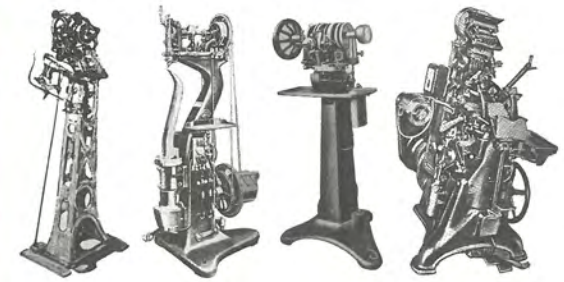
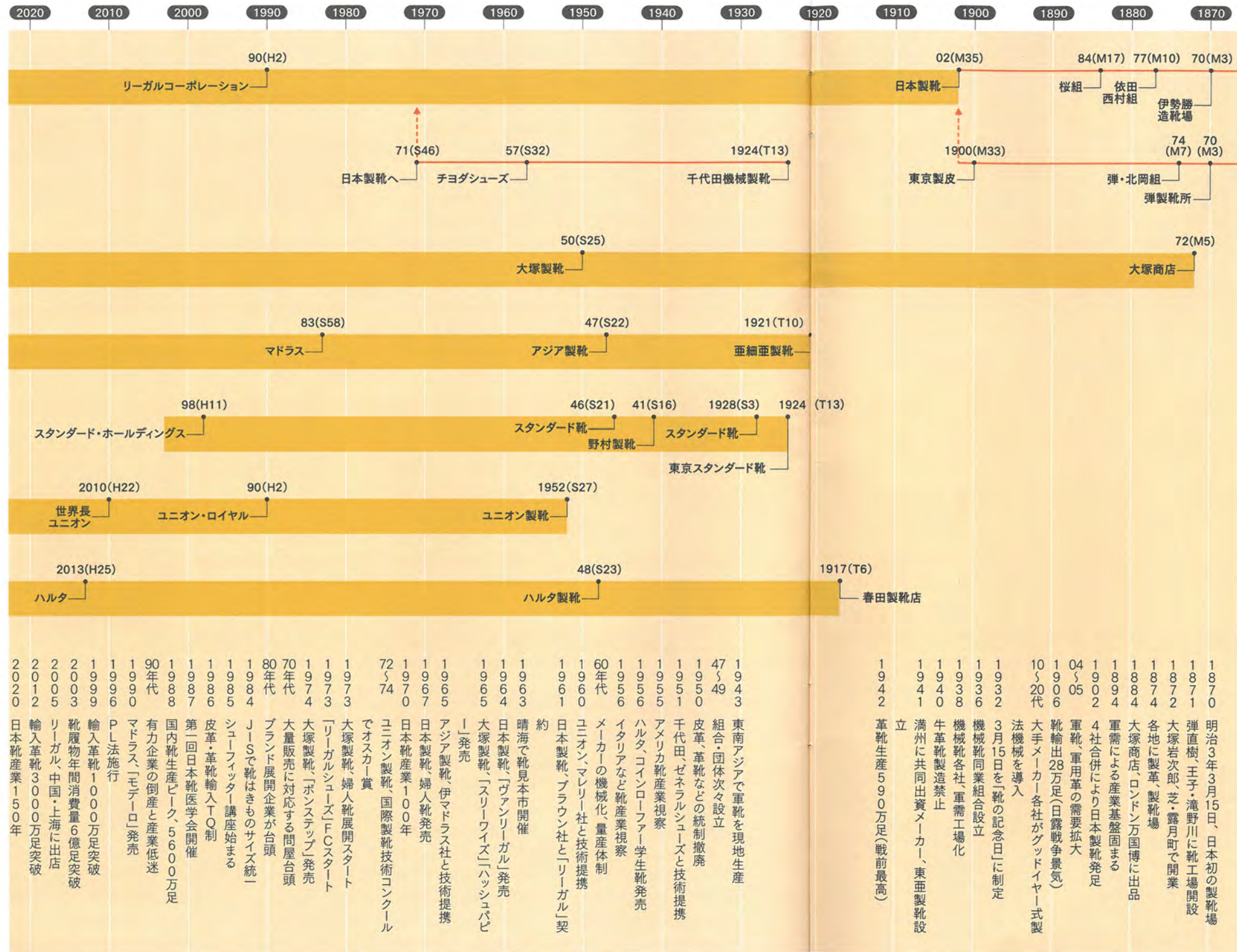
「九分製」の考案者、職人のリーダー
関根幸助

1871~1939年

製靴法「九分製」の考案者。佐倉藩士の子として生まれる。旧姓高梁。医者を目指すが、西村勝三に出会い、靴の道に入る。1889年、関根忠吉との靴工集団渡米に最年少で参加。数年の製靴修業の後帰国するが、そ

の後も数回渡米。人柄を見込まれ、関根忠吉の娘と結婚。関根姓となる。櫻組で製靴指導に当たるが、1928年、浅草・花川戸に靴メーカーを設立。製靴に取組むが、そこから九分製が生まれる。また統率力により、1909年設立の東京靴同盟組合の代議員議長、後に日本靴工同盟会の会長。「豪傑」とあだ名され、信頼された。

大手機械靴メーカーの誕生と変遷



日本の靴産業は、殖産興国、富国強兵を支える近代産業として誕生、日清・日露戦争を経て、重要な軍需産業として発展していく。

堅牢な靴を大量生産する。それには先進の製靴機械や技術が欠かせないし、大きな資本も必要だ。大倉財閥や藤田財閥などの資本家や政商の援助を得て、有力メーカーは機械化、大型化していく。製靴機械を代表するグッドイヤーウエルト式製法機械の導入状

況からも、そんな傾向が見て取れる。

大手メーカーのグッドイヤー式製法機械導入時期

1908(明治41)年/陸軍被服廠

1914(大正3)年/日本製靴(リーガル)

1917(大正6)年/東京製靴

1919(大正8)年/神戸屋製靴

1920(大正9)年/櫻組工業

1921(大正10)年/亜細亜製靴(マドラス)

1923(大正12)年/大塚商店(大塚製靴)

1924(大正13)年/千代田機械製靴(チヨダシューズ)

1924(大正13)年/東京スタンダード

太平洋戦争後、軍需から民需に転換したあとも、洋装化・都市化に伴う靴需要の拡大に対応して、紳士靴中心の有力メーカーは機械化近代化を進め、日本の靴産業(紳士靴)をリードする大手靴メーカーとして体制を整えていく。

製販一体で1950年代のトップメーカー

スタンダード靴 (東京スタンダード靴→野村製靴)

●1924 (大正 13) 年、明治製革出身で後に政界に入り運輸大臣にもなった宮沢胤勇が、母校・早稲田系の投資家などを募りグッドイヤー製靴機械によるメーカー、東京スタンダード靴を設立。やがて行き詰まり、28年、野村財閥の支援でスタンダード靴として再編、民需メーカーとして、紳士・婦人・子供靴、さらには靴クリームなども扱い、取扱店舗をチェーン化したり、様々なキャンペーンを行う。やがて戦時色が強くなり、軍靴中心になっていく。●戦後は紳士靴メーカーとして活動、婦人靴は系列会社が展開。取扱店のチェーン化に積極的で勉強会、イベントなど盛んに行っていた。



EXCEL V.I.A.C.E

昭和 30 年代には業界一の売上をあげていた。●「エクセル」、「ヴィヴァーチェ」などのPBの他、ユニバーサル、カルダンなどライセンスブランドを多く手掛けていたが、平成に入り経営悪化、2003年倒産した。

世界で認められた「マレリー」で一世を風靡

世界長ユニオン (ユニオン製靴→ユニオン・ロイヤル)

●戦前の日本製靴に奉職していた水口宝一が、1952 (昭和 27) 年、葛飾堀切に工場を置くユニオン製靴を設立。研究熱心であり、国際派の水口は、55年のアメリカ生産性視察団に加わり、その後もイタリアなどへの視察を重ねた。それが、マレリー社との技術提携に結び付き、72～74年には、伊・トリノで行われた国際製靴技術コンクールで3年連続のオスカー賞の獲得を果たす。●イタリアン・マッケイ製法の高級モカシンが一世風靡、その取扱店舗をチェーン化、素材、生産、販売、小売店を統合する。組織づくり、足の運動を反映した快適



靴開発など、時代に先駆けた企業活動を行った。●当時、東洋一といわれた靴工場を千葉・鎌ヶ谷に設け、中国・上海などにも進出。90年に社名をユニオン・ロイヤルに変更。07年に新工場を竣工。2010年、世界長と合併し、世界長ユニオンとなる。

「ジャーマン」モカシンで50年代をリード

チヨダシューズ (千代田機械製靴)

●グッドイヤー式製靴機械が導入され、軍靴の規格が機械製靴に変わったことをきっかけに機械靴メーカーが数多く設立された。その一つが、1924 (大正 13) 年設立の同社。戦後はいち早く米・ゼネラルシューズ社と技術契約 (51年)、「ジャーマン」モカシンのヒットなどがあり、トップメーカーに。が、大型工場の開設負担、在庫増大などで失速、71年には日本製靴と販売部門を統合、その傘下になる。



ロングセラー「ランバンモカ」は学生靴の定番

ハルタ (春田製靴店→ハルタ製靴)

●1917 (大正 6) 年、春田余咲が南千住に春田製靴店を開く。48 (昭和 23) 年、千住に子供靴製造のハルタ製靴を設立。やがて婦人・紳士靴も生産。58年、婦人コインローファー発売。60年来のロングセラー、ランバンモカの原型。60年代は輸出メーカーとして活躍。浅草メーカーと機械靴メーカーの橋渡的な役割、業界リーダーとしても長年貢献している。



HARUTA 1917 春田製靴

大手紳士靴メーカー7社

日本を代表する靴メーカー、靴ブランド企業
リーガルコーポレーション (日本製靴)

●1902 (明治 35) 年、大倉組、櫻組、福島合名、東京製皮、4社の製靴部門を統合し日本製靴設立。同様に設立 (1907年) された日本皮革 (ニッピ) と両輪の形で、明治、大正、昭和戦前の軍需 (主に陸軍)・官需の靴製造になった。●戦後はグッドイヤーウエルトやダイレクトバルカナイズ式製法の堅牢な紳士靴を中心に製造。1961 (昭和 36) 年、米・ブラウン社と提携、「リーガル」ブランドの製造販売スタート、64年の「ヴァンリーガル」が爆発的ヒットとなる。●以後、婦人靴展開、FCやショップ展開、技術開発、ライセンス展開などを積極的に行いトップ企業として業界をリー



ドしている。●1990 (平成 2) 年、ブラウン社より「リーガル」の商標権を取得、社名をリーガルコーポレーションと改称。2005年以降、上海、香港にショップや関連会社を展開するなど、挑戦と革新を続けている。

技術伝統の老舗メーカーとして業界をリード

大塚製靴 (大塚商店)

●1872 (明治 5) 年、佐倉藩士の子弟、大塚岩次郎が手縫革靴製造の大塚商店を14歳で創業。82年、明治天皇の御靴製作、89年、パリ万博に出品、銀牌を受けるなど高い技術を誇る。●明治～戦前は主に軍需 (海軍中心)、1922年にグッドイヤー製靴機械導入後は増産に拍車がかかり最盛期6000名を超える従業員を抱えた。●1950 (昭和 25) 年、大塚製靴に改組。民需転換後も「技術のオーツカ」の伝統を継続、サラリーマンをはじめとした働く男達の足下を守る紳士靴「スリーワイズ」、「ボンステップ (フィックスルーパー)」、「ルールズ」、健康歩行のための「ハッシュパピー」、「ハ



ッピーウォーカー」などを展開。●業界を代表する老舗メーカー、皇室の靴製造、業界団体のリード役といった重責を担いつつ、常に「日本の靴 (文化)」の向上に力を注いでいる伝統企業。

PRや時代対応が巧みな総合靴メーカー

マドラス (亜細亜製靴→アジア製靴)

●1921 (大正 10) 年、工業機械、乗合バス、ガス会社、鋳物工場、後に温泉開発などを手掛ける中島屋岩田武七 (岩田産業) が、グッドイヤー製靴機械を導入、亜細亜製靴を設立する。大正 11 年の関東大震災を機に東京支店開設、業績を伸ばす。●1947 (昭和 22) 年、アジア製靴に改称。1965年、イタリアの靴メーカーマドラス社と技術提携。60年代、靴の輸出が盛んだった時代、一貫して展開し、70年には輸出貢献企業として表彰されている。●83年、社名をマドラスに変



更。94年には、全世界の「マドラス」商標権を伊・パレンチノ社より取得している。ブランド毎、アイテム毎の販社活動、ショップ展開など、時代、市況に即して展開。また、スター、タレントを起用したPR活動に力を入れたり、環境活動やリサイクル活動に貢献したり、時代を見るに敏な企業である。

戦後復興から高度成長の60年代へ



第1回革と靴の見本市／昭和25(1950)年



「東京靴まつり」の銀座の靴店のウインド



日本橋三越で行われた靴の展示イベント／昭和25(1950)年



ミスシューズコンテスト／昭和35(1960)年



1950年代の靴まつり風景

1945年、第二次世界大戦、及び太平洋戦争は終結した。

その直後から日本は復興に向けて歩み出すが、それは容易な道程ではなかった。そんな中で印象的なのは、終戦4年目にして、戦時中に国に献納された西村勝三の銅像を、再建していることだ。靴産業の祖を、復興の指針とした。産業への並々ならぬ思いが感じられる。

その復興の大きな力になったと思われるのが、見本市や各種コンクールの開催だ。

統制が廃止になったのは、1950年であるが、その前年に、戦後初めての見本市「靴

と付属の大手」を開催した。そして翌51年春には、小売商団体による見本市、52年秋には浅草問屋街の連合組織によるもの、さらには大阪でも開かれるようになり、54年に

製靴コンクールは、48年にはじめて開催されたが、50年から年1回行われるようになった。技術力だけでなくデザインも審査対象とされ、また手製靴に限らず、機械靴も応募の対象とした。また手製底付けのスピード競技も行われ、釣り込みからすくい縫い、出し縫い、仕上げまでで2時間5分という記録が残されている。こうした競技が職人のやる気と技術力の向上に、どれだけ貢献したかは、想像に難くない。

メーカーのコンクール、靴卸の見本市、そして小売店のサービス・セールの三つで構成されたが、特に興味深いのは小売商団体の東靴協会によるイベントだ。脚の女王コンテスト、大足小足比べ、あなたの靴は足に合っていますかと

呼びかけた「靴の診察」、また「靴のうた」のレコードを製作し、希望者に実費で頒布したりもしている。こうした試みによって、靴産業は確実に復興していくが、その背景には、日本経済の急速な復興があった。



第1回製靴技術競技大会／昭和25年(1950)年



昭和20年代の靴

経済復興の大きな要因となったのは、50年に勃発した朝鮮動乱だ。その特需が日本にもたらされ、皮革産業にも、大量の注文が舞い込んだ。これを契機として、一般消費も回復していく。

靴産業は、またしても戦争によって潤ったということになるが、その後の成長を支えたのは、軍需ではない。民需だ。靴生産は、52年の時点で戦前のレベルに回復し、さらに増大の傾向を見せたが、内容は、戦前とは明らかに変化を見せていた。戦前は紳士靴が主流だったのに対し、

戦後は婦人・子供靴に。それは、少ない品種で在庫を多く持つというスタイルから、多品種少量の注文生産への変化も意味していた。

すなわち、ファッション化である。ウエッジヒール、イタリアン・

また、こうした変化は、小売店の台頭も促す。特筆すべきは、百貨店で積極的に靴を扱い始めたことだ。特に婦人・子供靴を多く扱い、大いに売り上げた。一方で、小売店のチェーン化による靴小売市場の拡大も起こる。

60年代に入り、高度成長がさらに進むと、海外への注目が始まる。その端緒は、55年の日本製靴業生産性視察団の渡米だ。これには機械靴メーカー18社が参加したが、帰国後にまとめた「靴業界への勧告」は大いに刺激となり、品質向上、効率的な生産システム、マーケット動向に合わせた企画などといった企業の近代化に大いに貢献した。またこれ以降、欧米への視察団の派遣が盛んになり、イタリアを筆頭にした各国の優れた生産技術がもたらされた。



全国靴販売者大会／昭和23(1948)年



機械靴メーカー18社による生産性視察団／昭和30(1955)年



大手町で大々的に行われた靴見本市／昭和37(1962)年

高度化・成熟化の70~80年代

DC & ライセンス ブランドデビュー年表 60s~80s

1954 S.27	●ジャーマン(チヨダシューズ)
1960 S.35	●マレリー(ユニオン製靴)
61 S.36	●リーガル(日本製靴)、オベルカ
62 S.37	
63 S.38	
64 S.39	●ヴァン・リーガル(日本製靴)
65 S.40	●ハッシュバピー(パピーシューズ)、ス リーワイズ(大塚製靴)
66 S.41	
67 S.42	●ピエール・カルダン(スタンダード靴)
68 S.43	●シャルル・ジョルダン(リリー製靴) ジーナ(トークツ)、●シオックス(イイ ダ)
69 S.44	カルツェリア・ホソノ、●ステファン・ケ リアン(大國商会)、●バーバー(宮城 興業)
1970 S.45	★キサ、★ブランナー M
71 S.46	●クリスチャン・ディオール(リリー製靴)
72 S.47	★マイエ、●クリスチャン・ディオール (ユニオン製靴)、●イヴ・サンローラン (日本製靴)、●アルドロ・バンディ(シ ヤミオール)
73 S.48	★モゲ、ベルフローリー(三鈴商事)
74 S.49	★ファンティック、マジョ(大雅)、●シャ ルル・ジョルダン(ユニオン製靴)、ポ ンステップ(大塚製靴)、●セダークレス ト(ミドリインターナショナル)
75 S.50	★卑弥呼
76 S.51	★マリールー、★メダ(モード・エ・ジ ャコモ)、●フランソア・ヴィヨン(センシ ュアス)、●ロセッティ
77 S.52	★ヨースケ(ユニベール)、●サシャ(リ ック・インターナショナル)
78 S.53	★フィリップ・ボワイエ、★モード・マ フィア(マリールー)、★コメックス(マ ブ)、★フィン、★モードカオリ(阿部)、 スコッチグレイン(ヒロカワ製靴)
79 S.54	★ザフティグ(ラボ・キゴシ)、★ミス・ ユー(ノエル・インターナショナル)、● サシャ(ファクティオ)、●ニナ・リッチ(オ ギツ)、●ジャン・ポール・ゴルチエ(シ ンエイ)、●マリ・クレール(スガヌマ)
1980 S.55	★トキオクマガイ、★あしながおじさん (クロスロード)、★セ・パズル(モード・ エ・ジャコモ)、リフト(キング製靴)
81 S.56	★デボラ、★オレンジルーム、★エレガ ンス卑弥呼、●クレージュ(ユニオン製 靴)、●クリスチャン・ペレ(バレリアン シューズ)
82 S.57	★マダム・グレコ、★オムス、★モンピ カゾ(以上モード・エ・ジャコモ)、★ キャッチボール(ポールポジション)、★ クランクハイト、★マサユキナイト

83 S.58	(ラ・モード・サソー)、●クレージュ(ユ ニオン製靴/ライセンス)、●ランバン (マドラス)、●レノマ(クラウン製靴)、 ●ダニエル・エシュテル(エフプラス)、 ★ブラック(フィリップ・ボワイエ)、フ ライドチキン(プラスワン)、★エイゾー (エイゾーコレクション)、★エー・ボン ブ(モード・エ・ジャコモ)、●ミラ・シ ョーン(ユニオンロイヤル)、ペダラ(アシ ックス)、●ランセル(スポーツマドラ ス)、★オビスオラ(ラボ・キゴシ)、●ク ロエ(オギツ)
84 S.59	★イエローキャブ(エービック)、●カサ ンドレ(アンデックス)、●バーバリー(大 塚製靴)
85 S.60	★フノナノ(卑弥呼)、●ノーマ・カマリ (月星化成)、★シティコンボ(ナガセ)、 ●ルイ・フェロー(イグレッグ商会)、● ジバンシィ(オギツ)
86 S.61	●ケンゾー(トークツ)、●フィオルツィ (三鈴商事)
87 S.62	★フープ・ディ・ドゥ、●ロペール・ク レジュリー(内田製靴)
88 S.63	●ルイ・フェロー(スタンダード靴)、★ パディンヤ(ラボ・キゴシ/サヤ)、● ベネトン(日本製靴)、●ガンター(バ レリアンシューズ)

メンズ レディス ●=ライセンスブランド
★=DCブランド ※カッコ内の社名は、当時の名称を表記

志向の高まりであり、また社
会進出によって女性の靴着用
時間が長くなったことだ。
そして、87年には日本靴医
学会の設立。90年代に入ると、
整形靴(整形外科的処方を加

えた靴)や、それを製作する
専門技術者への注目に発展、
2001年には、整形靴技術
者の国際的な団体であるIV
Oの一員として、日本整形靴
協会が設立された。

そして、日本人が、靴と健
康の問題に気付いたというこ
とは、やつと靴が文化化され
たということではないだろう
か。文化とは、人間が築き上
げて来た生活の様式によつて

形成されるものであり、健康
への意識は、靴との付き合い
方、靴のあり方に目を向けさ
せ、そこに付き合い方の形、
すなわち様式が生まれるから
だ。

時代と共に、靴のファッショ
ン化はますます進み、それによ
つて靴需要は拡大、高度化して
いく。
高度化・成熟化が進むのは、
80年代だ。その例を上げると、
70年代後半に登場した企画問屋
の活躍だ。企画問屋とは、企画
力を有する問屋という意味だ。
そして企画力とは、ファッショ
ン・トレンドや社会的志向など
をベースにして個性を表現する
もので、すなわちブランドの創
出を意味し、同時にデザイナー
にスポットを当てた。この流れ
の中で生まれたのが、「卑弥呼」
などのブランドで、当時は「キ
ャクター・ブランド」と呼ば

また80年代におけるエポッ
ク・メーキングな出来事は、
86年の皮革・革靴輸入の関税
割当(TQ)制への移行だ。
それまで皮革・革靴の輸入は、
国内産業を守る意味で制限さ
れていたが、世界的な自由貿
易の流れの中で、欧米諸国の
変化を意味していた。



自由化要求が高まり、制限を
廃止、関税措置によつて輸入
抑制する関税割当制に移行、
皮革・革靴の輸入は基本的に
自由化された。
業界は自由化反対の意向を
表明したが、関税割当制によ
つて、それまで高級品に限ら

90年代に近づくにつれ、注
目が高まったのが、足と健康
の問題だ。靴の作りの良し悪
し、足に合う、合わないが、足
ひいては全身の健康に影響を
及ぼすことは、欧米では古く
から広く認識されていた。日
本の靴の歴史が100年を超
えた時、日本人も、それに気
付いたと言えるが、それを後
押ししたのが、折からの健康



若い経営者とデザイナーによる企画問屋が次々に誕生した



ショールームも一般的問屋・メーカーとは異なり、それぞれのブランドに合ったものがつくられた



ブランドコンセプトカタログなども個性・ファッション性を備えたものをクリエイション

れていた輸入靴市場の裾野が
広がった。現在、革靴輸入は、
年間3000万足を超えてい
る。



靴脱ぎ文化国、独自の靴づくりを

90年代に入り、グローバル化やIT化がすすむマーケット環境に靴産業は急速に取り残される。産業自体が元々小さく、業種、品目に細分化され、中小零細企業がほとんど。しかも、労働集約型のアッセンブリー（組み立て）産業で先進国産業としては採算性が低く、高齢化が進むなどインフラも弱体化。二重三重苦の上、貿易制度に守られてきた反面の弊害でガラパゴス化している。

国内靴生産量のピークははるか1970年代で、現在はその20%の1800万足弱まで落ち



靴学校・教室と産業の推移

Table with 2 columns: 靴学校・教室 (Shoe School/Classroom) and 関連する出来事 (Related Events). Rows list years from 1972 to 2020 and corresponding events in the shoe industry.

込んでいる。

一方で輸入革靴は86年のTQ制導入以降増え続け、年間3000万足を越えている。マーケットサイズの間年1兆5000億円前後というの大きく変化していないにもかかわらず、国内靴産業は生産量大幅ダウン、現状打破の糸口すら見えなくなっている。

海外マーケットの開拓、IT

など先端テクノロジーの活用、ブランディング力強化、協業ネットワーキ化、そして人材育成……対応策のお題目は上がる。しかし、目標を定め、リスクを張って自ら一歩を踏み出さない限り、成果・成功も得られない。

そして、90年代末〜2000年代以降の時代変化、価値観の変化、また、靴産業の変

化に並行して、靴や皮革製品を自らの手でつくり、独自の方法で販売していくという靴の平成世代、とも呼ぶべき多くの若者たちが現れる。その人材育成の輩出役となっているのが全国各地に散在する靴学校・靴教室。現在、大小形態は様々だが、150校前後はあると思われる。靴職人を目指す若者を育てるだけでなく、趣味を愉しむ主婦やサラリー

マンに靴づくりの魅力を伝える、など——欧米諸国にも見られない独自の現象、靴文化がそこに生まれつつある。近年では、靴みがきに新た

なスポットを当て、クリエイティブな技術を高め、ライフスタイルビジネスとして市場を広げる若者も登場。ブーム的な動きとなっている。

そんな靴の平成世代が令和の時代にどんな形の靴づくりを行い、販売し、マーケットを広げていくか。一方の靴の昭和・浅草がどんな時代対応

を行い、日本独自の気候風土、生活習慣、暮らしと価値観を見すえたJSHOES NEXTを生み出すか。時代の幕は上がっている。

全国靴学校・教室リスト

- List of shoe schools and classrooms across Japan, organized by prefecture (e.g., 北海道, 青森県, 岩手県, etc.).



靴の街・浅草プロファイル



その概要 台東区には1000を超える皮革・革靴関連企業が集積。そのうちの約300を数える靴メーカー、材料製造・加工メーカーの大半が1・5キロ四方の奥浅草(浅草3〜7丁目、今戸、清川、橋場、東浅草地区)に集中している。近年はOEM業者や貿易商社、また、若手クリエイター・職人の工房やショ

ップが増えるなど地殻変動がすすんでいる。**その歴史** 江戸時代から関東随一の皮革の集積・処理加工の地だった。皮鞣し、皮革製品(草履、太鼓など)づくりの製造技術も伝えられ、明治以降は西欧の鞣製や革靴づくりの近代技術も取り入れ、多くの職人を生み出していた。戦後は洋装化、フ

ァッション化の流れと、高度成長を背景にした機械化(大量生産)により、一気に靴生産地として成長・繁栄した。**その特色** メーカーや問屋、皮革や底材・ヒール・金具など靴材料全般の販売業者、縫製や裁断などの加工所、企画会社や輸入業者など、革靴に関連するすべての業種業者が軒を並べて

おり、地域全体がネットワーク化したアッセンブリー工場のように機能している。大都市の中心部に位置し、交通の便が良かったことが当初の発展を支えた。また、大商業地(銀座など)に近接する利点もビジネス的に大きかった。情報化が進んだ現在も、市場と産地直結のマーケティング拠点として機能している。

1900 1890 1880 1870 1860

社会の動き

- 61 65 ▼アメリカ南北戦争
- 61 ▼イタリア王国建国

- 67 ▼ノーベル、ダイナマイト発明
- 68 ▼明治改元、江戸から東京へ
- 69 ▼スエズ運河開通
- 73 ▼徴兵令発布
- 76 ▼ベル、電話機発明
- 77 ▼西南戦争
- 78 ▼パリ万国博覧会に日本参加
- 79 ▼エジソン、白熱電球発明

83 ▼鹿鳴館落成

87 ▼皇后が婦人洋装採用思召書を下付

89 ▼パリ・エッフェル塔建設

94 ▼日清戦争

96 ▼アテネで第1回オリンピック

99 ▼自動車が入り始める

00 ▼パリ万国博覧会

01 ▼ペスト予防で、はだし禁止令(日)

02 ▼日英同盟

03 ▼ライト兄弟、初飛行

04 05 ▼日露戦争

靴&ファッション

58 頃 ▼靴産業が最大の産業となる

59 ▼リン市で米靴産業初めてのストライキ

62 ▼ボックス・トゥ(先芯)が使われはじめる

63 ▼ローラースケート登場(米)

64 ▼G・マッケイがブリークの機械の特許を買い、マッケイ底縫機として発売

70 年代 ▼ボタン・ブーツが流行

72 ▼米18代グラント大統領(製革業者の息子)の副大統領に靴メーカーのヘンリー・ウィルソンが選ばれ、皮革産業内閣が誕生

79 ▼グッドイヤー式製靴機発明(米)

85 ▼ノルウェーで本格的スキー靴が作られる

86 ▼独・モエナス社がアリアンズ底縫機を開発

87 ▼ロンドンに靴学校開校

92 ▼パリで「ヴォーグ」創刊

95 ▼英の外科医トーマスが整形外科利用ヒール(トーマス・ヒール)を開発

95 ▼米小売店が既製靴のサイズ・ウィズを制定

95 ▼英ノーザンプトンとレスターで靴工場が全面ロックアウト

03 ▼パリでジャポニズム・ファッション流行

日本の靴産業

61 ▼オランダ人の靴工、レマルシヤンが横浜に靴工場を開く

65 ▼遣欧使節、初めて靴を履く

68 ▼陸軍大臣大村益次郎、旧佐倉藩士西村勝三に軍靴の製造を勧める

69 ▼相場真吉、東京・京橋にトモエヤ開店

70 ▼西村勝三、築地入舟町に伊勢造靴所を開く / 大塚岩次郎、佐倉相済社に入り製靴技術を学ぶ / 弾直樹、皮革御用達となる

71 ▼弾直樹、王子・滝野川に皮革・軍靴伝習所を開設 / 和歌山に西洋鞣革製靴伝習所が開設される

72 ▼西村、弾、和歌山、共に軍靴を大量受注 / 大塚岩次郎、東京市芝区露月町で開業 / 民間靴が東京などで市販される

73 ▼陸軍給与令を制定、靴は年間4足給付と定められる

75 ▼西村勝三、銀座に依田・西村組靴店を開く

76 ▼岩井信六、19歳の若さで靴工として北海道に渡る / 藤田伝三郎、大阪に製革工場設立

77 ▼西南戦争によって軍靴の需要が増大

79 ▼大倉喜八郎、大阪で大倉組皮革製造所を興す

82 ▼大塚商店が明治天皇の御靴調製・献上 / 靴工・田中新三渡米

83 ▼ドイツから八方ミンシン輸入

84 ▼依田・西村組、櫻組と改称 / 大塚商店、英国の万国博覧会に出品 / レマルシヤン死去

87 ▼櫻組、初めて国産革と革靴を輸出

88 ▼東京靴工組合設立

93 ▼渡米の靴工などが「在米日本人靴工組合」設立

94 ▼軍靴の需要拡大により靴産業の基礎固まる

99 ▼日本靴工同盟会、東京造靴組合設立

00 ▼西村勝三ほか多くの靴業者、パリ万国博覧会に出品

02 ▼櫻組、大倉組、東京製皮会社、福島合名会社が合併、日



明治12/1879年頃の造靴場(稲川實氏所蔵)



西村勝三



弾直樹



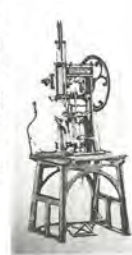
明治21/1888年頃の大塚製靴



明治10/1877年頃の依田・西村組靴店。明治17/1884年に櫻組、さらに日本製靴となっていく



明治時代のドイツ製八方ミンシン



モエナス社の木釘打機



モエナス社の最初のすくい縫機



明治期・伊勢造靴場の靴カタログ

1940

- 36 ▼二・二六事件
- 37 ▼スペイン内乱
- 37 ▼日華事変
- 38 ▼国家総動員法公布
- 39 ▼第二次世界大戦
- 41 ▼太平洋戦争
- 42 ▼衣料配給切符制実施



- 40 ▼ナイロン・ストッキング発売(米)
- 38 ▼ペルージャ、スキヤパレリとコラボレーション
- 37 ▼ウエッジ・ヒールが初めて売られる(米)
- 36 ▼デュボン、ナイロンを開発
- 36 ▼フェラガモ、フィレンツェにサロン、工房開設
- 35 ▼デュボン、ナイロンを開発

- 27 ▼金融恐慌(日)
- 26 ▼大正天皇崩御、昭和改元
- 29 ▼世界恐慌
- 30 ▼エロ・グロ・ナセンス時代
- 31 ▼満州事変
- 32 ▼五・一五事件
- 33 ▼ヒトラー内閣成立(独)

- 20 年代 ▼Tストラップ・パンプス流行
- 25 ▼アールデコ美術展
- 25 ▼米で安全靴のスタイル・キャップ開発される
- 26 ▼モボ・モガ登場
- 28 ▼セメント式底付の自動装置発明
- 30 ▼映画「モロッコ」でデイトリッヒの脚線美とハイヒールが人気

1930

1920

1910

- 23 ▼関東大震災
- 19 ▼米・禁酒法成立
- 20 ▼国際連盟成立、ラジオ放送はじまる(米・英)
- 17 ▼ロシア革命
- 14 ▼18 ▼第一次世界大戦
- 12 ▼明治天皇崩御、大正改元
- 10 ▼大逆事件
- 08 ▼T型フォード発売(米)



- 00 年代 ▼ルイ・ヒールのパンプスが広まる
- 09 ▼アンドレ・ペルージャがニースでショッブ開店
- 11 ▼パリ・オートクチュール組合発足
- 13 ▼米・ニューヨークで足病学研究所創立
- 14 ▼リトルウエイ製靴法開発される
- 16 ▼シャネル・スーツ発表
- 20 ▼米のYWCAがハイヒール排斥運動をはじめる
- 20 ▼サッコ・ヴァンゼッティ事件(米)
- 21 ▼ペルージャ、パリに進出
- 24 ▼オープン・トゥ、スリング・バックが流行

- 03 ▼トモエヤ、米国からマッケイ式機械を輸入、「マッキンレイ靴」発売
- 04 ▼日露戦争勃発、軍靴、軍用革の需要急増
- 06 ▼日露戦争による好況頂点、靴輸出は28万足を記録
- 07 ▼大倉組皮革、東京製革、桜組、今宮製革所が合併、日本皮革(現・ニッピ)発足/トモエヤ倒産/西村勝三死去
- 08 ▼陸軍被服廠、米国からグッドイヤー式製靴機械を購入
- 09 ▼三越呉服店で革靴を販売開始/東京靴同業組合創立
- 14 ▼ロシアから長靴100万足受注/日本製靴、グッドイヤー式製靴機械を輸入
- 16 ▼福助足袋が日本初のアドバリン広告
- 18 ▼大塚製靴、チエコスロバキアに長靴6000足輸出
- 22 ▼日本足袋(現・アサヒコーポレーション)、地下足袋を発売
- 25 ▼宮崎伊助、米国から帰国、アメリカ屋靴店創業/大塚

- 岩次郎死去/靴・皮革企業に労働争議多発
- 26 ▼靴靴サイズ、メートル法を採用
- 27 ▼つちやたび(現・月星化成)、ゴム底布靴を製造
- 28 ▼松田二郎、圧着製靴法を発明「子宝靴」商標で発売/スタンダード靴、ドイツからアゴー式接着機輸入
- 30 ▼靴同業組合、第1回東京商品見本市開催
- 31 ▼第1回日本手工業靴競技会開催
- 32 ▼東京靴同業組合、3月15日を「靴の記念日」に制定
- 33 ▼日本靴工組合結成/ワシントン靴店創業
- 34 ▼スタンダード靴学校設立/松田二郎、革にゴムを硫化させる圧着式製靴技術を完成
- 38 ▼皮革使用制限規則など皮革三原則公布、民需の皮革は全面的に使用制限/機械靴各社、軍需工場化
- 39 ▼日本皮革統制株式会社設立
- 40 ▼奢侈品等製造販売制限規則施行により牛革製の靴、製



昭和12/1937年頃の日本製靴本社工場(千住橋戸町)



日本製靴工場内部



ワシントン靴店創業(昭和8/1933年)



明治期~昭和初期の軍靴



明治末~大正期の靴工場内部



大正8/1919年、日本靴工同業会創立10周年集会



明治37/1904年、ロシアへの靴輸出増大



明治期の様々な靴

1970

1960

1950

- 79 ▼ソ連、アフガニスタン軍事介入
- 78 ▼日本、世界一の長寿国に
- 78 ▼新東京国際空港が開港
- 75 ▼ベトナム和平
- 76 ▼ロッキード事件
- 73 ▼オイルショック
- 72 ▼沖縄返還、日中国交正常化
- 70 ▼大阪万国博覧会
- 70 ▼銀座などで歩行者天国
- 69 ▼学園紛争拡大、アポロ11号月面着陸
- 67 ▼EC発足
- 68 ▼いざなぎ景気
- 66 ▼中国文化革命
- 65 ▼北ベトナム爆撃開始
- 64 ▼東京オリンピック(米)
- 63 ▼ケネディ暗殺(米)



- 58 ▼デュポン、ライクラ開発
- 63 ▼ロジェ・ヴィヴィエ、パリに出店、ショック・ヒール、コンマ・ヒール発表
- 64 ▼クレージュ、エナメルブーツ発表
- 64 ▼IVYルック流行(日)
- 66 ▼ミニスカート流行
- 67 ▼アンドレア・フィステール、パリに出店
- 67 ▼フーテン、アングラ、ヒッピー
- 69 ▼パンタロン、マキシ、男の長髪流行
- 70 ▼ドイツ靴研究所が子供靴サイズ規格WMSシステム制定
- 70 ▼「アンアン」創刊
- 71 ▼ベルボトム、ホットパンツ、パンティストッキング
- 73 ▼マノロ・ブラニク、ロンドンに「ザパタ」開店

- 45 ▼第二次世界大戦、太平洋戦争終結
- 46 ▼日本国憲法公布
- 48 ▼ベルリン封鎖
- 49 ▼NATO成立
- 49 ▼下山・松川・三鷹事件
- 50 ▼朝鮮戦争
- 51 ▼サンフランシスコ対日講和会議
- 55 ▼ワルシャワ条約成立
- 56 ▼経済白書「もはや戦後ではない」
- 58 ▼世界初の人工衛星(ソ連)、東京タワー完成
- 59 ▼皇太子ご成婚、キューバ革命
- 60 ▼60年安保
- 61 ▼ベルリンの壁構築
- 62 ▼高度成長続く(日)、キューバ危



- 45 ▼クラウス・マーチンとハーバート・フンクがエア・ソールを開発
- 46 ▼ポリエステル市販
- 47 ▼ディオール、ニールックを発表
- 50 ▼映画「赤い靴」ヒット
- 51 ▼日本初のプロ・ファッションショー開催
- 53 ▼オソペディック・シュー・マイスター登場(独)
- 56 ▼独・GDS見本市はじまる
- 57 ▼ジヨルダン、パリ進出

- 57 ▼日本靴連盟が「足入れサイズ」採用/子宝靴、製造オートメーション機械発明
- 58 ▼メートル法施行で、靴サイズは「文」から「センチ」、革の取引単位は「坪」から「デシ」へ
- 61 ▼日本製靴(現・リーガルコーポレーション)、米国ブラウン・シューと「リーガル」で技術提携
- 63 ▼靴の見本市、東京・晴海で開催
- 64 ▼革靴の年間輸出10億円を記録/米国デュポン社が人工皮革「コルファム」発表
- 65 ▼クラレ「クラリノー」、東レ「ハイテラック」と、国産人工皮革が相次いで発表
- 67 ▼東京靴卸協組組合員の年間販売高200億円超え、問屋主導時代幕開け
- 68 ▼ブーツ・ブーム
- 69 ▼ダイエーが靴小売店の「コルドバ」設立
- 70 ▼日本の靴業100年
- 72 ▼プラットフォーム大流行/ユニオン製靴が伊の皮革製品コンテストで日本初のオスカー受賞/アメリカ屋靴店、わが国靴小売業初の年商100

- 41 ▼機械靴8社、共同出資で満州に東亜製靴株式会社設立
- 42 ▼皮革統制会設立/この年戦前最高の革靴生産590万足
- 43 ▼軍の要請で、東南アジア各地での現地生産はじまる
- 44 ▼機械靴各社工場の疎開はじまる
- 46 ▼切符制による標準靴の配給はじまる
- 47 ▼業界の再構築に向けて、皮革、製靴の各団体設立される
- 49 ▼東靴協会設立/戦後初の見本市「靴と付属の大都市」開催/GHQ、日本人の足に合った靴型の製作を勧告
- 50 ▼牛皮革配給統制、靴・革の価格統制撤廃
- 51 ▼第1回東京靴まつり開催
- 54 ▼靴連盟が初の靴のモードショー開催
- 55 ▼日本製靴業生産性視察団が渡米、海外戦略の先駆け/この年、下駄の生産高ピーク
- 56 ▼革靴のJIS規格制定



1972と74年、ユニオン製靴がイタリヤ、靴のオスカー賞を受賞



靴業百周年(昭和45/1970年)



大手町で開かれた靴見本市(昭和37/1962年)



ミスシューズコンテスト(昭和35/1960年)



脚のコンクール(昭和26/1951年)



昭和20年代の靴



昭和20年代の靴まつり



第1回製靴技術競技大会(昭和25/1950年)



全国靴販売者大会(昭和23/1948年)



第1回革と靴の見本市(昭和25/1950年)

2010

- 20 ▼ 新型コロナウイルス禍
- 19 ▼ 令和改元
- 20 ▼ 東京オリンピック延期
- 18 ▼ 初の米朝首脳会談
- 16 ▼ 民族主義台頭、イギリスEU離脱へ
- 16 ▼ 熊本地震
- 12 ▼ アベノミクス
- 12 ▼ スカイツリー完成
- 11 ▼ 東日本大震災、なでしこジャパン
- 08 ▼ リーマンショック



- 19 ▼ 消費税10%に
- 17 ▼ キンザ6誕生
- 16 ▼ LINEが上場
- 15 ▼ 中国観光客の爆買
- 14 ▼ 消費税5%が8%に
- 09 ▼ ファストファッション全盛

- 05 ▼ クールビズ提唱
- 04 ▼ 新千、五千、二万円札発行
- 03 ▼ 六本木ヒルズ誕生
- 00 ▼ ニクロ急拡大
- 99 ▼ ガングロ、ヤマンバ
- 98 ▼ ルーズソックス流行
- 96 ▼ プラダ、グッチ流行
- 95 ▼ セレクトショップ出現

2000

- 96 ▼ 狂牛病発生
- 99 ▼ EU、ユーロ誕生
- 00 ▼ シドニーオリンピック
- 01 ▼ 9・11同時多発テロ、口蹄疫流行
- 03 ▼ 地デジ、スタート
- 04 ▼ 新千、五千、一万円札発行

- 20 ▼ 日本靴産業150年
- 19 ▼ 日欧EPA発効
- 14 ▼ ファッションスニーカー人気
- 12 ▼ 輸入革靴が3000万足突破
- 08 ▼ ムートンブーツがヒット
- 04 ▼ 美脚ブーツがヒット
- 03 ▼ IVO世界会議が日本で開かれる
- 02 ▼ 大塚製靴が創業130年、リーガルが創業100年
- 01 ▼ 日本整形靴協会設立/靴学校、手製靴教室盛況
- 00 ▼ 靴のマルトミ、民事再生法を申請

- 97 ▼ 足と靴と健康協議会発足
- 99 ▼ アメリカ屋靴店破産/厚底ブーム
- 95 ▼ 阪神・淡路大震災で、神戸・長田、大打撃/PL法施行
- 93 ▼ ウルグアイラウンドで革靴に関する関税率引き下げ合意
- 91 ▼ ナイキ・エア、大ヒット
- 90 ▼ 卑弥呼、リーガル他、株式市場相次ぐ



靴産業150年の年の「靴の記念日」式典(令和2/2020年)



2010年以降、レザースニーカーが広まった



手作り靴教室、靴職人志望の若者が急増(2000年代)



阪神大震災で産地・長田は大打撃を受けた(平成7/1995年)

1990

- 95 ▼ 阪神・淡路大震災
- 94 ▼ 細川↓羽田↓村山内閣
- 91 ▼ 湾岸戦争
- 90 ▼ バブル経済崩壊、東西ドイツ統一
- 89 ▼ 昭和天皇崩御、平成改元
- 89 ▼ 消費税スタート、ベルリンの壁崩壊
- 88 ▼ ソウルオリンピック
- 87 ▼ エイズ元年
- 86 ▼ チェルノブイリ原発事故



- 80 ▼ プラザ合意、円高へ
- 83 ▼ 大韓航空機墜没事件、東京デイズニールランド開業
- 84 ▼ プラザ合意、円高へ
- 82 ▼ DCブランドブーム
- 85 ▼ 東京コレクション開始
- 86 ▼ ボディコン・ファッション流行(日)
- 88 ▼ プラダ、ウエアに進出
- 89 ▼ 赤嶺勲、パリにAKA出店
- 92 ▼ スーパーモデルに注目

- 89 ▼ チョダ靴店が1000店舗達成
- 87 ▼ 第1回日本靴医学会開催/日本製靴(現・リーガルコーポレーション)「プロフェッショナル・シューフィッティング」を翻訳出版
- 86 ▼ 皮革・革靴の輸入自由化、関税割当制に移行
- 85 ▼ チョダ靴店が株式上場/日本靴総合研究会、シューフイッター養成講座開講
- 84 ▼ 足の健康への関心が高まる/皮革輸入制限、ガット(貿易関税一般協定)第11条違反の裁定下る
- 83 ▼ JISで「靴のサイズ」が制定され、靴はきものサイズ統一/キャラクター・ブランド、ブーム化
- 81 ▼ 欧米諸国が皮革・革靴の輸入自由化、関税率の引き下げ要請
- 78 ▼ 日本はきもの博物館開館
- 75 ▼ ジュート巻き、ニエートラ・パンプス流行
- 74 ▼ チョダ靴店が靴チェーンで初の100店舗突破
- 73 ▼ エスペランサ靴学院開校
- 70年代に爆発的に売れたリスフィットブーツ



足と健康への関心が高まったのも80年代から



70~80年代、企画問屋がDCブランドブームを巻き起こした



高田喜佐、熊谷登喜夫などのデザイナーが活躍



高田喜佐、熊谷登喜夫などのデザイナーが活躍



- 80 ▼ イラン・イラク戦争
- 78 ▼ 竹の子族登場
- 80 ▼ 熊谷登喜夫、パリ・デビュー
- 80年代▼イタリア靴産業、年間生産5億足(輸出4億足)台統
- 75 ▼ ミラノ・コレクション開始
- 74 ▼ ビッグ・ファッション
- 73 ▼ インジエクション・モールド製法開発

- 0億円を突破
- 73 ▼ エスペランサ靴学院開校
- 74 ▼ チョダ靴店が靴チェーンで初の100店舗突破
- 75 ▼ ジュート巻き、ニエートラ・パンプス流行
- 78 ▼ 日本はきもの博物館開館
- 81 ▼ 欧米諸国が皮革・革靴の輸入自由化、関税率の引き下げ要請
- 83 ▼ JISで「靴のサイズ」が制定され、靴はきものサイズ統一/キャラクター・ブランド、ブーム化
- 84 ▼ 足の健康への関心が高まる/皮革輸入制限、ガット(貿易関税一般協定)第11条違反の裁定下る
- 85 ▼ チョダ靴店が株式上場/日本靴総合研究会、シューフイッター養成講座開講
- 86 ▼ 皮革・革靴の輸入自由化、関税割当制に移行
- 87 ▼ 第1回日本靴医学会開催/日本製靴(現・リーガルコーポレーション)「プロフェッショナル・シューフィッティング」を翻訳出版
- 89 ▼ チョダ靴店が1000店舗達成



70年代に爆発的に売れたリスフィットブーツ

皮革産業資料館

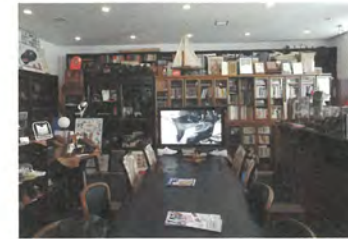
所在地=東京都台東区橋場1-36-2 台東区立産業研修センター2階
Tel:03-3872-6780
http://taito-sangyo.jp/05-kensyu/center_museum.htm/
開館:火~日曜 10:00~16:00(要予約)



1978年、皮革関係の歴史書「皮革産業沿革史」編纂に伴い蒐集された資料を管理する施設として、皮革業界の有志が発起人となり開設。現在は台東区が運営管理している。2000点以上の皮革製品、図書、資料の大半は業界人からの寄贈、寄託。歴史靴や民族靴、有名選手のスポート靴など貴重なものばかり。江戸時代からの皮革製品や金唐革などの数々も素晴らしい。産業文化の拠点として、さらなる拡充が期待される。

リーガルアーカイブス

所在地=千葉県浦安市日の出2-1-8
Tel:047-304-7050
<http://www.regal.co.jp>
開館:平日 10:00~17:00(要予約)



創業100周年を記念する文化事業として開設したリーガル資料室を、本社移転に伴い、新浦安の新社屋の一角に設けたアーカイブス。主に1955年以降の同社製品を中心とした国内外の紳士・婦人靴が5000足以上、手に取れる形で収蔵されている。靴関連書籍も5000冊を超し、その他の文献資料や関連グッズ、そしてビデオ、DVDなどの映像資料が分類整理されている。靴の現代史を探るには必見。

あしあとスクエア (松永はきもの資料館)

所在地=広島県福山市松永4-16-27
Tel:084-934-6644
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/matsunaga-hakimono>
開館:金~日曜と祝日 10:00~16:00



日本はきもの博物館として1978年に開設され、2015年7月に福山市が運営管理を引き継ぎ、リニューアルオープンした日本で唯一の本格的な靴履物関連博物館。昭和30年代まで同地が日本最大の下駄産地だったことを示す工場や資料の数々を保存し、日本古来の履物から世界の民族靴、近代のファッション靴まで約13000点を収蔵している。その素晴らしいに感嘆、収集努力に頭が下がる。

